

自からかかわり楽しみながら課題解決する学習指導

— 「飯小授業スタンダード」をつくる協働実践研究を通して —

1 本実践研究のねらい

日常の教科指導において、子ども達が、自ら楽しんで課題解決をしていくために、協働で「授業スタンダード」に基づいた課題解決的な学習過程の授業実践を行い、帰納的に授業づくりのポイントを見だし、それを生かした「飯小授業スタンダード」をつくることをゴールとします。

授業と研修は相似形と言われます。本実践研究は、先生たちの「楽しい授業づくり探求」です。

2 授業スタンダードについて

(1) 授業スタンダードとは

一般的に授業スタンダードとは、教育現場で授業の質の向上を目指し、指導方法や授業の展開などを共通の基準として定めたものです。具体的には、学力の定着や向上を目的とし、授業の進め方、具体的な指導方法、子供たちの実態に応じた指導観などを内容とする規範です。県下では、「学力向上」に向けた授業改善のための一方策として推進されてきました。また、授業者が変わっても同じように学びを進めることができることから、授業者間・教科間・学校種間で生まれる学ぶ側のギャップをなくすこともねらいの一つです。

しかし、本校では、子供自身が課題解決の学習過程における「学び方（課題解決の方法）」を身に付け、見通しをもってより主体的に学習を展開することができるようになることを意図して、どの教室でも共通に実施する指導過程としての「授業スタンダード」を設定しています。

子供たちがこのような学習過程を日常的に経験していくことで目指しているのは、「自ら課題を見だし、自分の頭で考え、他者と協働しながらよりよく課題を解決する」未来社会で生きる力の育成です。そこには必ず「楽しい」という情動が伴います。

大切なことは、「自ら」「自分の頭で」「他者と協働して」などのキーワードに込められています。「飯小授業スタンダード」の実践は、先行き不透明な未来社会を生きる子供たちが身に付けるべきキー・コンピテンシー（人が生きる鍵となる力）の育成を目指していることを常に意識することです。

(2) 本校がめざす「授業スタンダード」

① ねらい

児童・・・「自ら課題を見だし、自分の頭で考え、他者と協働しながらよりよく課題を解決する」力を育成する。

教師・・・上記の力がつく楽しい授業のアイデアを集積し、みんなで実践を持ち寄り、楽しみながら協働して探求し、「飯小授業スタンダード（指導アイデアの宝箱）」をつくっていく。

② 現行「授業スタンダード」の形式



【子供への提示】



【指導者向けの提示】

3 実践研究の方法について

授業実践（授業づくり→公開授業→事後協議）を通して、授業アイデアを集積する。

- (1) 学級担任は、原則1回公開授業を行う。
- (2) 公開する授業の教科は、授業者が決める。(チャレンジしたい教科を行う。)
- (3) 公開する授業は、「授業スタンダード」に沿ったものとする。
- (4) 公開授業後は、それぞれの部会(6研究の組織を参照)で協議会を行い、成果と課題を明確にし、その後の授業に生かすとともに、効果のある授業アイデアを記録・集積する。
- (5) 検証は、授業チェックリスト及び児童の授業アンケートを活用する。
- (6) 集積した効果のある授業アイデアを「飯小授業スタンダード」に取り入れる。

4 実践研究の流れ

【授業前】

☆ 単元を作る。

- (1) 目標を把握する。
- (2) 教材の価値を把握する。
- (3) 子どもの実態を把握する。
- (4) 指導の計画を立てる。

☆ 本時の授業をつくる。

【指導案作成・検討】

- (1) ねらい（主眼）を明確にする。（指導場面の解説書の分析）
- (2) 授業を構想する。
 - ① 主眼に対応するまとめ（主眼を子供の言葉にしたら？）をつくる。
 - ② まとめに導く展開部分の活動をつくる。
 - ③ まとめと対応するめあてをつくる。（②と③は「行きつ戻りつ」になることもある。）
 - ④ めあてが生まれる導入を工夫する。
 - ⑤ 発問計画をつくる。

【授業実践】…以下のことに留意しながら行う。

- (1) 今日の授業で、子ども達はどんな顔をするか、楽しみにする。
- (2) 話し過ぎずに、問い返して考えを引き出したり共有させたりする機会を意図的につくっていく。
- (3) ○児の理解を促すために○○と助言を試みる。
- (4) ○児のよさを見取って意図的に指名する。
 - ※ 授業観察者は、授業チェックリストを指標に観察し、評価する。取り入れたいアイデア等を細かく記録する。

☆ 授業後の振り返りをする

【授業後】

- (1) 部会での協議会において、本時の授業について振り返る（チェックリストを指標に）
- (2) 職員室で、授業での子どもの姿やうまくいったこと、うまくいかなかったことを話題にする。

☆ 授業の基盤は

- 望ましい人間関係…普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことが大切である。
- 教師の姿勢…「教育は人なり」と言われるように、最大の教育環境は、私たち教師であることを念頭におく。
- 学習規律については、発達の段階を踏まえてどの学級でも共通に指導する。
- 日常での教員の学び合いを行う。授業づくりや子供の反応などの話題でもりあがる職員室に。

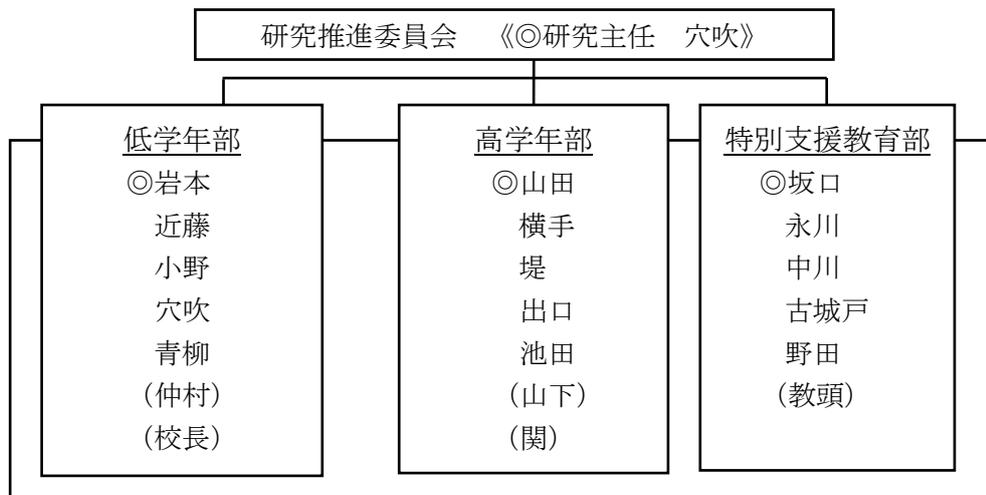
5 授業者が日頃から心がけておくこと

- (1) 柔軟な発想ができるように視点を変えて楽しむこと。
- (2) 多面的・多角的に物事を見るために「遊び心」を兼ね備えて楽しむこと。
- (3) 自ら進んで、いろいろなことにチャレンジして、思考を柔らかくして楽しむこと。
- (4) 日常生活の中で、物事を考えるときにゴールを見据え、「見通しを持って」楽しむこと。
- (5) 職員室でいろいろな話をして、会話を楽しむこと。

6 研究の組織

研究推進委員会（校長、教頭、教務、研究主任、各部部長）を構成する。

【組織図】



7 研究の年次計画

- 1 年次 授業実践の集積と現行授業スタンダードへの付加修正（導入段階）
- 2 年次 授業実践を通じた「飯小授業スタンダード」の更新（展開段階）

8 部会の活動内容

意見交流することで、多様な考えや意見を取り入れ、思い描く授業の実践につなげる。また、日々の授業をよりよく改善していくために効果のある指導アイデアやポイントを共有する。

【事前】

- ① 各学年・教科ごとの系統性を確認する。
- ② 教科・単元・教材・題材等の選定を行う。
- ③ 授業について全員で確認し、よりよい授業となるようアイデアを出し合う。
- ④ 授業観察するために、授業者が設定した授業の具体的な手立てとその意図を理解する。

【事後】

- ① 公開授業後、協議会の実施。
- ② 研究授業の成果と課題、改善策を共有、効果のある指導アイデア（日頃の授業に生かせそうなポイント）を整理し、翌日からの授業や次の部研に生かす。